

大学生の性意識と性行動の変遷：新入生を対象とした1978年と1990年の比較

藤島, 和孝
Institute of Health Science Kyushu University

佐久本, 稔
Department of Health and Physical Education Fukuoka Women's University

吉川, 和利
Department of Health and Physical Education Hiroshima Pref. University

橋本, 公雄
Institute of Health Science Kyushu University

他

<https://doi.org/10.15017/619>

出版情報：健康科学. 16, pp.135-142, 1994-03-15. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

大学生の性意識と性行動の変遷
——新入生を対象とした1978年と1990年の比較——

藤島和孝 佐久本 稔* 吉川和利**
橋本公雄 右田孝志***

The Actual Conditions of Sexual Consciousness and
Sexual Behavior in College Students

—— The Results Obtained from the Examination of Freshmen in 1978 and 1990 ——

Kazutaka FUJISHIMA, Minoru SAKUMOTO*, Kazutoshi KIKKAWA**,
Kimio HASHIMOTO, Takashi MIGITA***

Summary

The present study was performed to observe the change of the times concerning sexual consciousness and sexual behavior freshmen between 1978 and 1990. The investigation was taken of 275 males and 157 females in 1978, and 258 males and 232 females in 1990.

The results were summarized as follows :

1. The rates of the desire for a kiss, petting and coitus were higher in males than in females both in 1978 and 1990, respectively. The desire for coitus was higher in 1990 than in 1978 both in males and female subjects.
2. The rates of experience in a kiss, petting and coitus were higher in 1990 than 1978 both in males and females, and there were obviously significant differences in males.
3. Concerning the limit to friends of men and women, coitus was higher in males than in females, and in 1990 than in 1978 both in males and female subjects.
4. The rate of admittance to coitus before the marriage were higher in males than in females both in 1978 and 1990, respectively.
5. Concerning the attitude to conception among friends of men and women, "artificial interruption" decreased, while "perplexity" increased in 1990 compared with that in 1978 both in males and females, respectively.
6. Concerning the attitude to virgin and virginity for a partner of marriage, "being particular about them" was higher in males than in females both in 1978 and 1990. "Making no bones about them"

Institutu of Health Science, Kyushu University 11, Kasuga, Fukuoka 816, Japan.

* Department of Health and Physical Education, Fukuoka Women's University, Fukuoka 813, Japan.

** Department of Health and Physical Education, Hiroshima Pref. University, Nanatsuka, Shobara, Hiroshima 727, Japan.

*** Institutu of Health and Physical Education, Kurume University, Kurume 830, Fukuoka, Japan.

was higher in 1990 than in 1978 both in male and female subjects.

These results suggested that sexual consciousness and sexual behavior change with the times, and these provided us with the available basic material for the guidance of sex education at a college.

Key words : Sexual consciousness, Sexual behavior

(Journal of Health Science, Kyushu University 16 :135-142, 1994)

はじめに

青少年をとりまく生育・家庭環境は、社会的・文化的等の諸要因によって変化し、それに伴い青少年の性に対する意識や行動の実態は、時代とともに著しく変容している³⁾。さらに、マスコミなどによる歪められた性情報の氾濫⁵⁾や長寿時代へ向けての性教育のあり方が問題となっている。

一般的に、青少年の性意識や性行動の時代的变化に関する報告⁶⁾⁷⁾⁸⁾から、全国レベルでのその実態を認識することができる。

一方、大学の教養課程で性教育を実施するうえで、ほぼ同一の学校環境で生活してきた学生の性意識と性行動の実態を明らかにすることは、講義に対する学生

の興味・関心度はもとより、指導内容の展開の面からも有意義である。著者らは、過去の実態については、すでに報告⁹⁾した。

本研究は、主に中学および高校時代、受験勉強を中心に生活してきた新入生を対象とし、性意識と性行動に関する時代の変化を究明するために、1978年と1990年の調査結果を比較検討した。

方 法

1. 対 象

九州大学および福岡女子大学の1年生を対象に、1978年は男子275人、女子157人、また1990年は男子258人、女子232人について、質問紙法により、5月初旬に調査した。

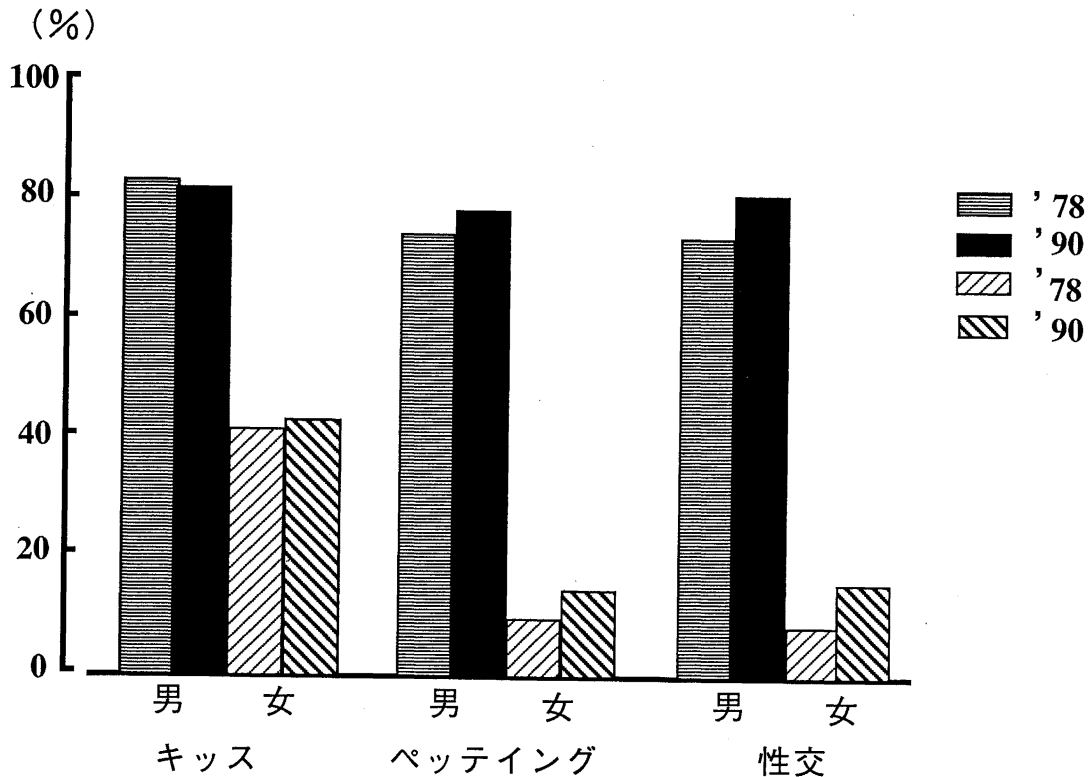


Fig 1. The rates of desire for a kiss, petting and coitus between 1978 ('78) and 1990 ('90).

2. 調査内容

1) 性行動への欲求, 2) 性行動の経験, 3) 異性交際の限度, 4) 独身中の態度などについて調査した。

結果と考察

1. 性行動への欲求

キス, ペットイングおよび性交への欲求が「ある」と回答した割合は, 図1で示すとおりである。

キスについては, 男子で83.3% (1978年) および82.1% (1990年), 女子で41.4% (1978年) および43.1% (1990年) であり, またペットイングについては, 男子で74.2% (1978年) および78.3% (1990年), 女子で9.6% (1978年) および14.3% (1990年) であり, 両項目では男女とも時代差は認められなかったが, いずれも男子が女子より有意に高かった。性交については, 男子で73.8% (1978年) および81.0% (1990年), 女子で8.3% (1978年) および15.5% (1990年) であり, いずれも男子が女子より高く, 男女とも1978年より1990年の方が有意に高かった。この男女間の差については, 他の報告⁶⁾⁷⁾¹⁰⁾でも同様の傾向を示している。本成績から得られた各行動に対する欲求度は, 他の報告⁶⁾¹⁰⁾に比

較して, 特に女子で著しく低い結果を示した。

2. 性行動の経験

キス, ペットイングおよび性交の経験が1回でも「ある」と回答した割合は, 図2で示すとおりである。

キスについては, 男子で12.0% (1978年) および28.2% (1990年), 女子で12.7% (1978年) および26.3% (1990年) であり, いずれも男女差は認められなかったが, 男女とも1978年より1990年の方が有意に高かった。ペットイングについては, 男子で6.2% (1978年) および16.2% (1990年), 女子で5.7% (1978年) および10.7% (1990年) であり, また性交については, 男子で6.9% (1978年) および13.2% (1990年), 女子で3.2% (1978年) および5.2% (1990年) であり, いずれも男子が女子より高い傾向を示したが, 有意差は認められなかった。両項目での男子の経験率は, 1978年より1990年の方が有意に高かった。本成績から得られた各行動に対する経験率は, 全国的調査⁹⁾の同年代の結果に比較して, 男女とも著しく低い値を示した。さらに1990年におけるキスの経験率は, 男女とも, 他の報告⁹⁾でみられる同年での高校2年生とほぼ同率であ

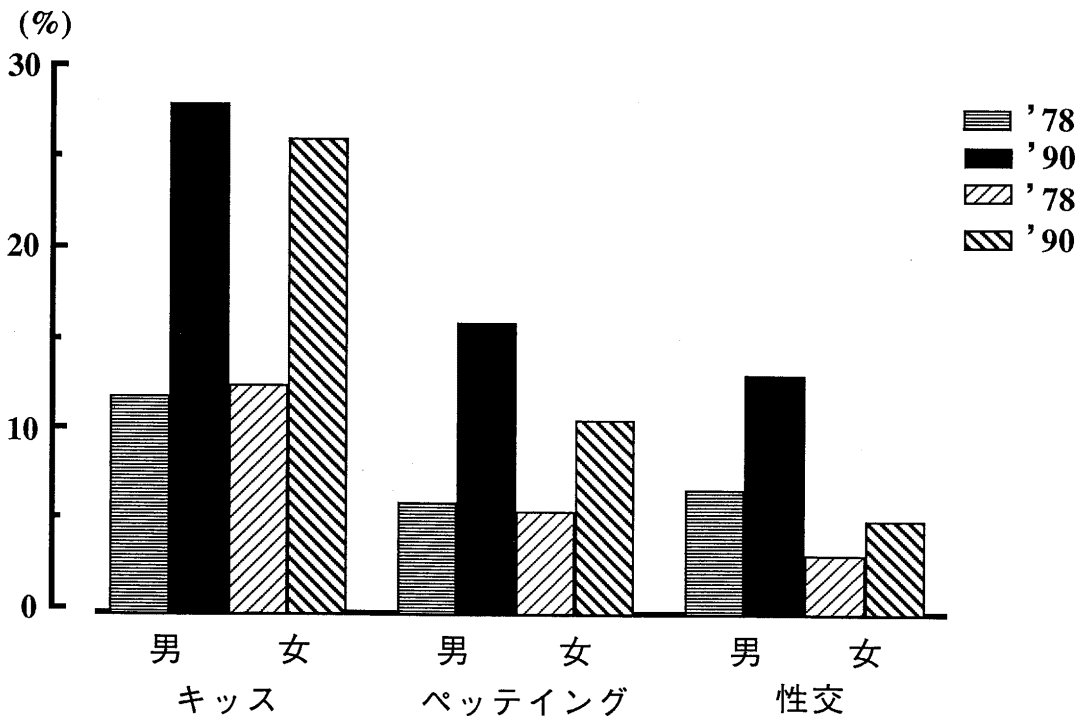


Fig 2. The rates of experience in a kiss, petting and coitus between 1978('78) and 1990('90).

り、また性交については、男子は中学2年生、女子は中学1年生に相当する結果を示した。

3. 異性交際の限度

異性交際の限度についての結果は、図3で示すとおりである。

「性交以前（キス以前、キスおよびペッティングまで）」については、男子で45.8%（1978年）および45.7%（1990年）、女子で70.7%（1978年）および80.7%（1990年）であり、男女とも年代差は、認められなかったが、いずれも女子が男子より有意に高かった。また「性交まで」については、男子で26.5%（1978年）および49.2%（1990年）、女子で5.1%（1978年）および12.5%（1990年）であり、いずれも男子が女子より有意に高く、また男女とも1978年より1990年の方が有意に高かった。これらの結果は、他の報告¹⁰⁾と同様に、異性交際に対する男女の意識の差を明確に示すとともに、年代差を反映していると思われる。

4. 独身中の態度

1) 結婚を前提とせず、愛情があり、妊娠しないと

いう条件での婚前性交についての結果は、図4で示すとおりである。

男子では、「よい」が70.5%（1978年）および78.3%（1990年）、また女子では、38.2%（1978年）および46.6%（1990年）であり、女子で9.6%（1978年）および14.3%（1990年）であり、男女とも時代差は認められなかったが、いずれも男子が女子より有意に高く、他の報告⁹⁾と同様であった。これらの結果は、婚前性交に対する男女の意識には、男女差が顕著にみられ、年代による差がないことを示唆している。

2) 異性交際中の妊娠については、図5で示すとおりである。

男子では、「中絶する」が34.5%（1978年）および21.3%（1990年）、また女子では、30.6%（1978年）および9.1%（1990年）であり、男女とも1978年より1990年で低下し、特に女子では有意差があった。男女とも、「育てる」が1978年より1990年にやや減少し、「わからない」がそれぞれ有意に増加する特徴を示した。これらの「中絶する」・「育てる」の減少、「わからない」の増加は、妊娠に対する建前と本音、さらに現実の問題として捉えた場合の困難性を示唆している。

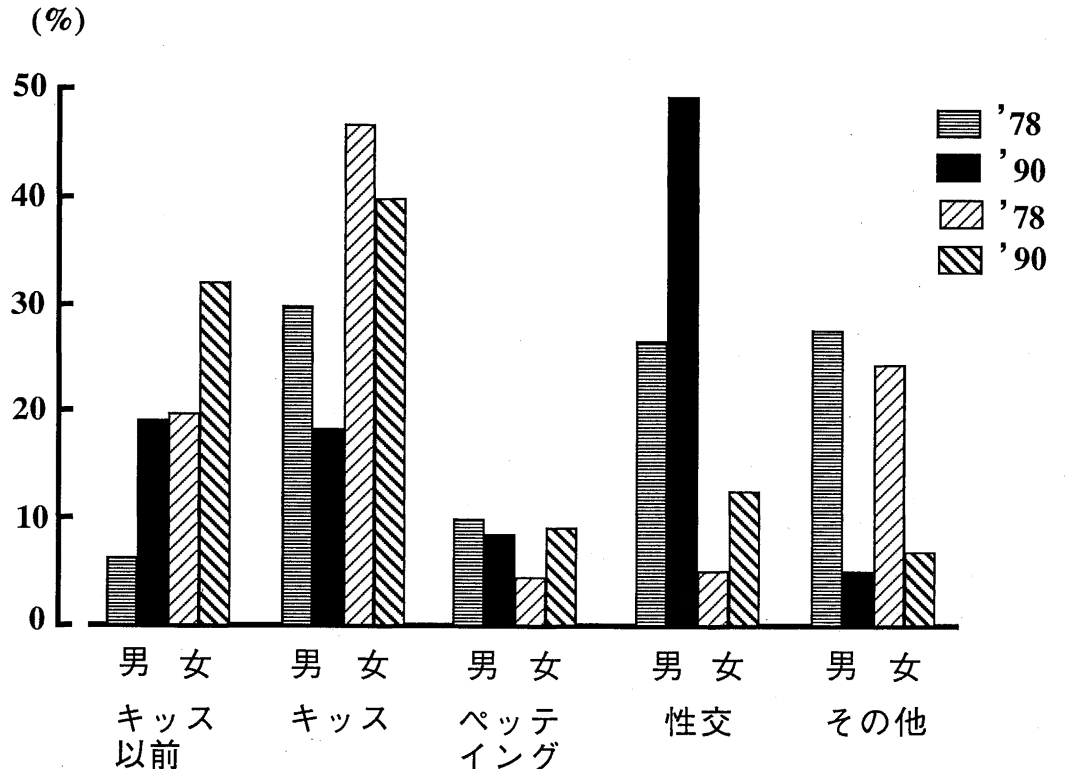


Fig 3. The limit to friends of men and women between 1978('78) and 1990('90).

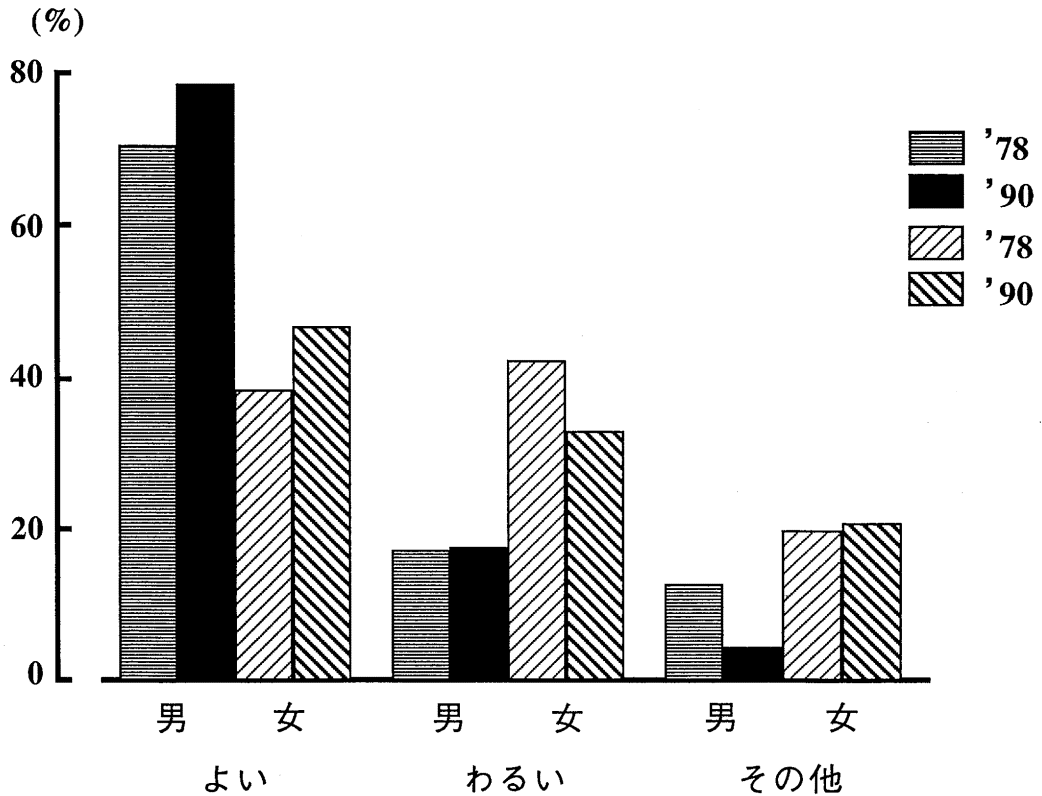


Fig 4. The attitude to coitus before the marriage between 1978('78) and 1990('90).

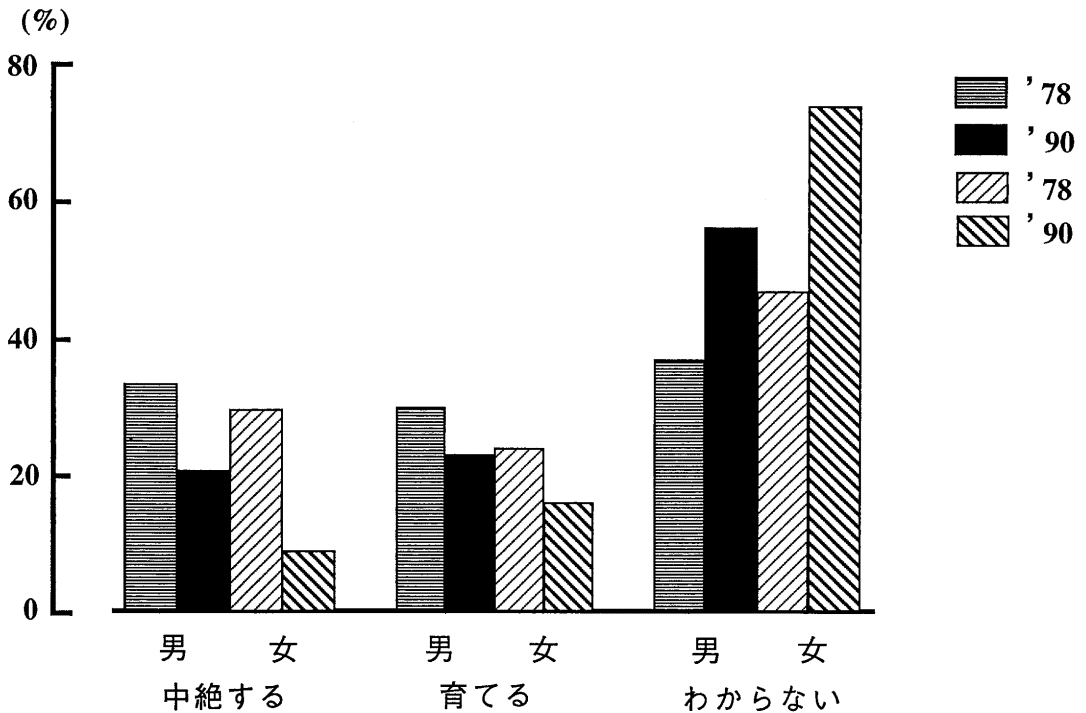


Fig 5. The attitude to conception among friends of men and women between 1978 ('78) and 1990 ('90).

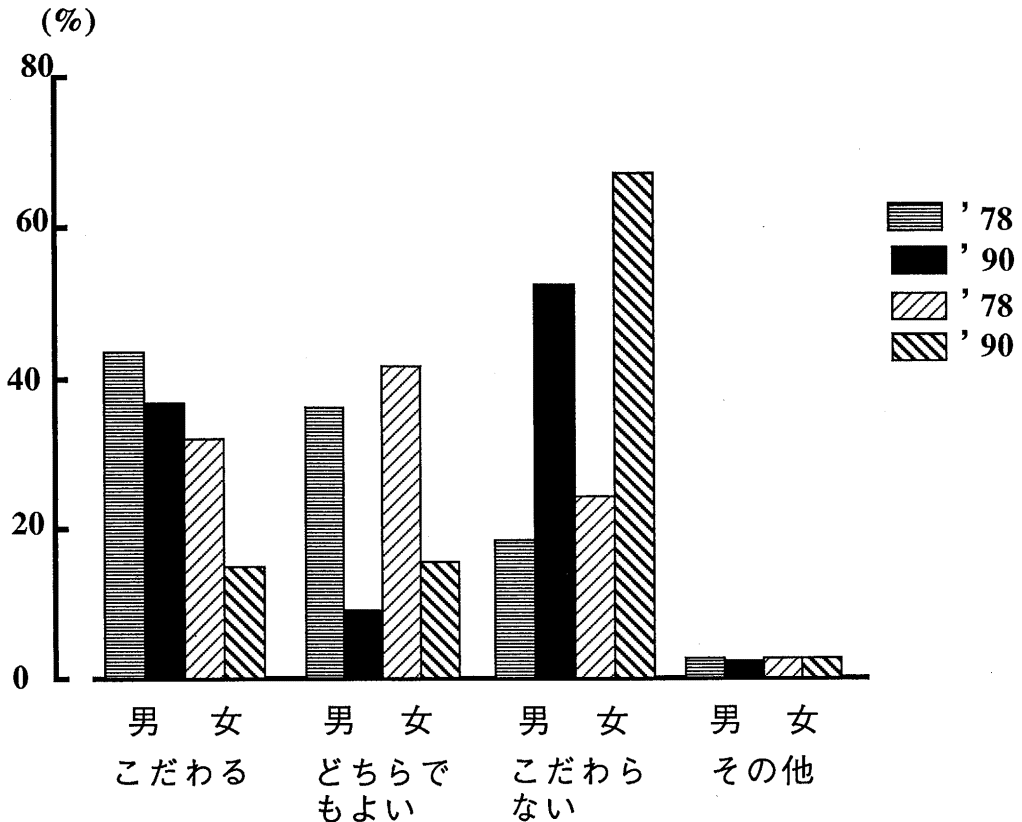


Fig 6. The attitude to virgin and virginity for a partner of marriage between 1978('78) and 1990('90).

3) 処女・童貞性については、図6で示すとおりである。

男子では、「こだわらない」が18.2% (1978年) および52.4% (1990年)、また女子では、24.2% (1978年) および67.3% (1990年) であり、男女とも1978年より1990年では有意に増加した。しかし、男子では、「こだわる」が43.3% (1978年) および36.5% (1990年) であり、女子の31.8% (1978年) および14.7% (1990年) に比較して、いずれも高かった。このことは、渡辺⁹⁾が「男性が女性に処女性を要求し、それを結婚する唯一で第一の条件とするのは、旧道徳観に基づいた男性支配の意識がいまだに抜けきっていないからである。男性の性意識の中にある専有欲、嫉妬心、新しいものへの願望など、女性を支配したいという欲求は無視できない」と述べているように、本結果からも同様に、前述の婚前性交での男子の結果を加味して考えると、男性の身勝手さが示唆された。

まとめ

大学の新生を対象とし、性意識と性行動に関する時代的变化を究明するために、1978年と1990年の調査から、次のような結果を得た。

1) キス、ペッティングおよび性交に対する欲求は、1978年および1990年とも、男子が女子より有意に高かった。性交については、男女とも1978年より1990年の方が有意に高かった。

2) キスの経験率は、男女とも1978年より1990年の方が有意に高かったが、性差は認められなかった。ペッティングおよび性交の経験率は、男子が女子より、また男女とも1978年より1990年の方がそれぞれ高い傾向を示した。

3) 異性交際の限度については、「性交以前」は、男女とも年代差は認められなかったが、いずれも女子が男子より有意に高かった。また「性交まで」は、男子が女子より有意に高く、また男女とも1978年より1990

年の方が有意に高かった。

4) 結婚を前提とせず、愛情があり、妊娠しないという条件での婚前性交について、「よい」とする割合は、1978年および1990年とも、男子が女子より有意に高かったが、男女とも時代差は認められなかった。

5) 異性交際の妊娠については、男女とも「中絶する」が1978年より1990年で低下し、特に女子では有意差があった。「育てる」が男女とも、1978年より1990年にやや減少し、「わからない」がそれぞれ有意に増加した。

6) 処女・童貞性については、「こだわらない」が男女とも1978年より1990年で有意に増加した。しかし、「こだわる」が1978年および1990年とも、男子が女子よりも高かった。

これらの結果は、性意識と性行動の時代的変遷を示唆しており、大学における性教育実施面での有効な基礎的資料を提供した。

文 献

- 1) 藤島和孝, 吉川和利: 大学生の性意識と性行動, 第26回日本学校保健学会講演集: 113, 1979.
- 2) 栗原淳, 中西雪夫: 学校保健研究, 33(Suppl.): 150, 1990.
- 3) 黒川義和: 性意識の変化と性教育の流れ, 学校保健研究, 32(6): 260-263, 1990.
- 4) 黒田芳夫: ライフサイクルにおける性と学校の性教育, 学校保健研究, 23(8): 352-356, 1990.
- 5) 松本清一: マスコミの性情報と性教育, 学校保健研究, 26(11): 502-506, 1990.
- 6) 日本性教育協会編: 青少年の性行動, 現代性教育研究, 2: 7-12, 1982.
- 7) 島崎継雄: 青少年の性行動を再考する, 現代性教育研究月報, 7(2): 1-5, 1989.
- 8) 東京都幼・小・中・高性教育研究会, 性意識・性行動調査研究委員会: 児童・生徒の性意識・性行動——最新12年の推移——, 現代性教育研究月報, 11(10): 1-7, 1993.
- 9) 渡辺信一: 最新性教育指導用語辞典, 能美光房, 間宮武編, 第一法規出版, 1975. pp. 131-132.
- 10) 山口透, 森田洋司: 青少年の性意識と性行動, 現代性教育研究, 4: 46-53, 1977.